



ちょっぴりハード、でもすご〜い！

台風18号の接近に伴う大雨・洪水警報が発令されていたため、自宅待機であった子どもたちが、警報解除とともに、多少、日程を変更して南但馬自然学校にやってきました。

2年ぶりの利用である、三田市立松が丘小学校の子どもたちです。「流しそうめん」ならぬ「流し出石そば」を作るなど、アイディアマンの先生が引き続きの5年生担任で、今年も何かやってくれると期待していました。

松が丘小学校の自然学校のテーマは、『但馬の魅力を 探ろう・味わおう・伝えよう』です。大変素直で、教師が指示したことはきっちりとこなす落ち着いた子どもたちのようですが、「自ら考え行動しよう」という意識が十分に育っていないことから、子どもたちに、但馬の魅力をホームページ等で調べさせ、子どもたちがやってみたい活動をつなぎ合わせて、プログラムを作り上げたそうです。事前学習に力を入れ、プログラム作成にあたり、子どもたちの参画が見られます。子どもたちが考えたプログラムだからこそ、「困ったことがあっても、先生たちからの指示を待つのではなく、みんなで知恵を出し合い乗り越えよう」という指導にもつながるのです。

特に、感心した「竹伐採から竹加工、竹バームクーヘンづくり・竹ごはん、残った竹は、キャンプファイヤーでも使用」の一連した2日目の活動を紹介します。

子どもたちは、事前学習として竹という素材に焦点を当て、竹の性質、竹の切り方、その際の安全上の注意などを調べた上で、竹伐採を行いました。そしてその後、伐採した竹を使い、下記のような様々なアクティビティに取り組みました。

- 竹加工（個人制作）・・・竹マイばしづくり
- （班制作）・・・竹筒飯盒づくり
- （共同制作）・・・オブジェ（竹の花台）
- 流し出石そば台づくり
- 竹バームクーヘン用の棒づくり
- 竹を使った野外炊事・・・竹の端材を薪と同様に燃料として使用



これらのアクティビティも、事前学習として子どもたちが、インターネット等を活用し竹クラフトの手順や竹を使った野外炊事の調理方法を調べ、一人で、または仲間と力を合わせて、主体的かつ積極的に取り組んでいました。次から次へと作業があり、息つく暇もない程でした。途中で飽きたり、他のことに気が向いたりしそうですが、共同製作においては、しっかりと役割分担が出来ており、それぞれが友だちに迷惑をかけまいとして自分の責任のもとで、また、友だちを助けようという思いやりの心で、協力しながら、作業に没頭していました。





かなりハードなタイムスケジュールにもかかわらず、昼食・夕食とも、竹を使い野外炊事を行っています。昼食は、おにぎり・流し出石そば・竹バームクーヘンで、夕食は、竹ご飯・バーベキューです。



下見時に、「竹を使って、何

かを作らせたい。野外炊事の片付けを早く終わらせたい」と言われたので、「竹筒飯盒は、どうでしょうか。飯盒のように洗わなくても良いので、点検を受ける必要もありません」と、答えました。また、「バームクーヘンにも挑戦したい」ということだったので、本校主催事業で行ったレシピを渡しました。すると、夏休み中に、先生方で一度試作をされたようです。子どもたちが作ると、思いの外、時間がかかってしまったようですが、とっても香ばしいものが出来上がりました。竹筒飯盒も、お米と水の割合を、1：2にするようにしか助言しませんでした。ふっくらとしたおいしいご飯ができたようです。時間の関係で、竹食器を作ることは出来ませんでした。夕食時には、火おこしも挑戦しています。2～3日に分けて行う活動を、1日に凝縮しているのです。決して、ゆとりのあるプログラムとは言えませんが、子どもたちは、生き生きと活動し、先生方も、子どもたちをあおり立てるような素振りは一切ありませんでした。事前指導が行き渡っているのです。自分たちが考えたプログラムであるから、子どもたちに、自己責任を持たせているのです。それは、利用校の「自然学校のしおり」のページのほとんどは子どもたちの手で書かれているとともに、5日間のすべてのアクティビティのめあて、方法、注意事項等は、子どもたちが主体的に調べ、まとめていたことから伺えました。

また、使用後の竹筒飯盒も、その日のキャンプファイヤーの端材に使うなど、子どもたちへの「切った竹をすべて使い切る」意識づけがしっかりとされていました。そういう意味で、環境教育の一環としても優れた取組であったと言えます。

何よりもすごいと感心したのは、「事前準備が大変ですね」と声をかけた時に、アイディアマンの先生から、返ってきた『子どもと一緒にやっているのが、楽しいですから』の一言です。先生自身が、楽しんでおられるのです。先生が楽しんでいる様子が、子どもたちにそのまま伝わっているのです。先生の頑張っている様子が、子どもたちに伝わっているのです。そんな先生の様子を見て、子どもたちも頑張るのです。自然学校の期間だけのことではなく、日頃からの学級経営が、うまくいっている証拠でもあると言えます。自然学校だからと言って、子どもとの関わりにおいて特別なことをする必要はないのです。ありのままの先生でいいのです。

もう、こんな季節になりました！



ちょうど、松が丘小学校の子どもたちがテントで泊まった翌朝、9月にしては珍しく雲海がはっきりと見えました。例年だと、10月下旬からで、前日雨が降り気温が下がった朝方に見ることが出来ます。



柿は、台風接近でかなり落ちてしまいましたが、今年は豊作です。とっても甘い柿が出来ています。子どもたちも、おいしく食べていました。

編集後記

松が丘小学校の取組は、単学級だからできたのかもしれませんが、クラス毎や個人選択活動として取り入れることは可能だと思います。今後、このような取組が増えていくことを期待します。

(文責 主任指導主事兼指導課長 北條 勝也)